

刊夕 日六月三

常 報 日 新 報

定価 一紙五銭 一ヶ月五拾銭 郵費別
 廣告料 五號十二字 一行金五拾銭
 日曜 祭日の日 休刊
 発行所 常報日新報社
 編集所 常報日新報社
 印刷所 常報日新報社

創 作

死を撰ぶ人々

村 瀬 忠 夫

……(一)……

静江は嫌な縁談をすゝめられて気が腐つて居た。女學校を卒業した許りの彼女にとつて、姉をさし置いて先方の是非自分と言ふ所望を小にくらしくさへ思つた。卒業し、未だ女學生氣質のとれない彼女は結婚に就て深く考へた事は無かつたし、餘り魅惑も感じなかつた。まして窮屈な嚴格な家庭に育つた彼女は異性を知る機會の與へられなかつた事は確かである。そして今まで兩親に對して従順だつた彼女と結婚に關しては色よい返事をする譯にはいかなかつた。自己を犠牲にし、政略結婚に甘んじ悲哀の内に人生を送る自分が哀れに思へた。夫れに先方の貴公子振つた俺は百萬長者の息子だと言はん許りの態度に少なからず憤慨を覺えざるを得なかつた。踏みぢまれた青春の花を假想し泣き明かす自己の姿を想像し、ゾット身のよだつ思ひがした。本當に自分を心から愛し長い人生を助けつ助けられつ……何の秘密

も無く打溶け合ふ異性を胸に描いて居た。そして結婚を享樂と考へ、物質で、權力で、慾にせんとする男を罪惡視して居た。然し現實は野獸的人間と自分を結び付ける破目に陥し入れた。母は娘に同情して居たものの父の手前……最近餘り面白くない事業上の事を考へ……涙さへ浮べて嫁いて呉れと言われれば、嫌とは言へないが夫とて「ハイ」とも言へ兼ねた。自己に忠實ならんとすればする程苦痛は増大する計りで此の世に生を享けた事さへ悲しく思へた。此頃では父に顔を合はす事さへ嫌になつた。家に

居る事さへ苦痛になつた。職業戦線に男々しく立つ婦人がうらやましがつた。だが反面「××のお嬢さんが……」とチャイナリストの三面記事の餌食にされる事が恐ろしくなつた。目立ない職業限局された小さな世界、保證人とか父母の承諾書とか、かまひい手續の要しない、どんな苦痛を忍ぼうと職業かほしかつた。だが考へてそんな簡単に氣樂に人生を通させて呉れる世界は見當る筈が無い。不圖喫茶店に働いて居る女學生時代の友人村上千代の事を考へ相談する氣になつた。父母姉妹のある彼女だけが唯一の人生の相談相手として千代の事を考へたのも無理は無かつた。其の日母の買物がたら小遣の餘分をずつと四年間預金して置いた通帳を引張り出し二白三十圓許り手にした。誰かが自分の行動を監視して居る様な氣がして氣がソハソハして落付かなかつた。飯田橋で「静江さんでないこと」と呼ばれた時はハツとした振り返ると叔母が笑ひながら近づいて來た。「今お宅へ伺ふと思つて居た處よ、お母さん御在宅かい、え、おられます」家へ戻つてからも静江は容顔へ顔を出さなかつた。今日の自分のした一部始終が叔母の口から暴露されはしないかと言ふ懸念に驅られた。其の夜は母と叔母と連れ立つて映畫見物に出掛けた。父は旅行先から戻つて來なかつた。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】バターtoast 牛乳
 カスタードプディング
 ク 果物
 【晝】煮付鮭 香物
 【晚】ぬた(酢取り魚ねぎ) わかめ
 いため後飯(豚肉) こま切 玉葱 トマ
 マケチャップ)

居る事さへ苦痛になつた。職業戦線に男々しく立つ婦人がうらやましがつた。だが反面「××のお嬢さんが……」とチャイナリストの三面記事の餌食にされる事が恐ろしくなつた。目立ない職業限局された小さな世界、保證人とか父母の承諾書とか、かまひい手續の要しない、どんな苦痛を忍ぼうと職業かほしかつた。だが考へてそんな簡単に氣樂に人生を通させて呉れる世界は見當る筈が無い。不圖喫茶店に働いて居る女學生時代の友人村上千代の事を考へ相談する氣になつた。父母姉妹のある彼女だけが唯一の人生の相談相手として千代の事を考へたのも無理は無かつた。其の日母の買物がたら小遣の餘分をずつと四年間預金して置いた通帳を引張り出し二白三十圓許り手にした。誰かが自分の行動を監視して居る様な氣がして氣がソハソハして落付かなかつた。飯田橋で「静江さんでないこと」と呼ばれた時はハツとした振り返ると叔母が笑ひながら近づいて來た。「今お宅へ伺ふと思つて居た處よ、お母さん御在宅かい、え、おられます」家へ戻つてからも静江は容顔へ顔を出さなかつた。今日の自分のした一部始終が叔母の口から暴露されはしないかと言ふ懸念に驅られた。其の夜は母と叔母と連れ立つて映畫見物に出掛けた。父は旅行先から戻つて來なかつた。

呼吸患救済の王……
 陸海軍御用
 帝國大學醫學部御用
 官公立醫學專門學校御用
吸入川酸素
體溫計(メイトル)
 御用命次第迅速に御届け致します
 平町古鍛冶町一〇縣社ノ下
阿康藥局
 電話 四四四番
 振替口座東京三〇〇番

有給社員募集
 一、地方擴張ノ爲男女十數名募集ス
 固定給ノ外歩合アリ
 一、資格者 經驗ノ有無ニ不拘指導ス
 一、但シ誠意奮闘家ヲ望ム 希望者ハ
 午前中當出張所へ面談アラレタシ
 野村生命保險株式會社
 磐城出張所 平町長橋町四七
 主任 福島 健之

食事・喫茶・酒場・を兼ねた
 佛蘭西
 御料理
ザロン
 平・田町 電話三五二番

吉田眼科醫院
 平紺屋町 電話六八番
 醫學士 吉田久雄

貴方の御家庭に
 お手不足は御座いませんか
 本會を御利用下さい
直に家政婦派出します
 親切 料金は極めて低廉で
 町導 妊娠婦の御家庭 お留守居番
 御病人の付添 炊事や雜用 年寄やお子さんの付添
派出多忙に付會員至急募集
 平町紺屋町二(電話二二三番)
上原家政婦會
 會主 産婆 上原通子

お惣菜用
 さつま揚
 吉原揚
不器用
 電話一四一番

母イセ儀病氣之處療養相不叶三月五日午前一時死去致し候間此段以紙上辱知諸彦に御通知申上候
 追而來る七日午後二時自宅出棺九品寺に於て佛式に依り葬儀執行仕候
 昭和十一年三月五日
 諸橋敬一郎
 諸橋 武
 諸橋久太郎
 山下芳明
 親戚總代

温本町民大會で

温泉開鑿中止を決議

口禍論争問題意外に波及

湯本町では昨五日夜七時半から同町三函座に大井川正己氏司會で町民大會を開き過般來石川湯本町長對款原義雄氏の論争に端を發する事件の重大性に鑑み協議する處あつたが結局現在既に着手した温泉復活問題に就いて同町地下が入山炭礦で採掘し居るため温泉の出る見込み稀薄であり殊に今後の維持費の捻出法も樹立なきは町民の不安を助長せしむる許りでなくひいては區費を亂用する懼ありとなして之が中止方を協議、委員六十名を擧げて町當局に交渉することになり近く委員大井川、熊上外五十八名が決議文を草案當局に交渉することになつた、尙石川町長對款原氏の論争に對しては町民を惑はすこと多き事實ある爲兩者の立會演説を求めんことを決議した

學童劍道に

覇權を目指す

郡内小劍士

既報來る八日平第三小學校に催される郡下小學兒童劍道大會は期日も迫り出場各學校の小劍士達は皆づれも有力視されて居る

郡内に躍る好景氣

貯金が壹千萬圓

縣内隨一の王國振り

昨報九年度に於いて約一千万圓に近い九百五十七萬五千三百九十三圓の貯金を有し縣内最高の貯金王國振り來二三一八〇圓 小名

平窪青年

役員改選

平窪青年團はこの程役員改選の結果左の如く決定した (團長) 松崎金松 (副) 中村 敬二 (同) 國府出忠男 (會計) 小野若男 高萩盛男 (幹事) 小野清外五名

希望は輝く

胸轟かして 築立つ若人

磐中の各部選手が

残した足跡を検討

△劍道部 「北斗不滅の輝を黄金の楯に刻みつゝ」の部歌そのまゝ未明の空をのしかし酷熱を物ともせず猛練習に精進し勇躍縣下體育大會に臨んだ彼等の戦績は第二義として練磨された縣中健兒の武士道精神は近き將來に不滅の輝きを發する

濱五〇八三〇 四倉五九七二一 江名一四八〇七二 植田三六〇一六六 湯本七九七四五四 中ノ作七三八五二 平新川町四〇三四九七 紺屋町二三六〇三四 胡摩澤五五〇二 勿來驛前七六二六七 合戸五七六六四 泉一九三二二八 上遠野一六一三七二 川前四四五〇 上平一四一〇三八 三坂七〇七二六 落路夫五六八一五 渡邊四四一七 綴四四九〇四七 豊岡六三七七二 好間七五八七七四 白水六三五七四 上湯長谷五七〇〇二 内郷四一六二二七 八 莖九二二三 藤原六三一一二 西小川五八三四七 草野一三六四七 五 山田六一三八

工事進む

平保線區事務所舎屋は最近腐朽と狹隘を爲め去月廿五日より豫算三千四百圓で改築工事に着手し去る四日上棟式を行つたが新舎屋は木

花の四月早々

大型機關車運轉

磐越東線に計畫

第二日曜に

平驛列車増結

磐越東線で目下使用して居る機關車は地經乘客の關係から小型機關車を使用して居るが最近旅客貨物共増加して來たので鐵道省では明年店早々同線にも大型機關車を使用する計畫を建てその前提として近く同沿線七十四キロの枕木レール等を豫算三十萬圓で取替作業を

遠藤景久 川島正巳

△辯論部 弓道部と同様校内大會の範圍を出でず聘肉の嘆をかこつ、この部の卒業生に武田泰三、鈴木節長の兩君あり過般の辯論大會には健實な思想を土臺とした内容を以て自が心靈を感敵に打撃せながら眞に現代青年の正しき自覺に進むべき道を全校千二百の健兒に絶叫した功績は偉大であつた

△柔道部 大將の二段東海

林勇、副將初段佐藤忠一のファイティングスピリット旺盛な兩君を送り出すことは

勿來信組總會 勿來信用組合は今六日午後一時より勿來小學校で第廿六回總會を開き十年年度事業報告役員改選を行ふ

平 町 人 事

回 婚 姻

△大工町二六杉本忠氏 (三〇) 神谷村大字上片寄字堂ノ作川一吉田キヨさん (二七七)

△白銀町一四佐藤菊治氏 (四二) 信夫郡清水村大字御山字一本松一一白坂カナさん (三二二)

宗正らひた

美味! 芳醇!

安齊科醫院

山崎合名會社 電話一〇番 平町・田町 電話四七五番

授業料並に戸數割

夫々中止及び値下

公會堂は敷地移轉問題で

新年度豫算面より撤回か

平町十一年豫算四十九萬九千二百圓を審議する豫算委員会は本日午前十時より昨日休會に引續き開會、四日の委員會に提案された公會堂敷地移轉問題に就いて慎重に協議する處あつたが十二時迄には決定に至らず午後三時過ぎに大體公會堂建築案を豫算面より撤回、委員七名をあげて本

月末まで敷地選定を爲し追加更生豫算として計上されることになるものらしく同時に幾分問題となつた高等科授業料値上は修正撤回することに決定、亦特別税戸數割一戸平均一圓の値上は五十錢値上に修正された向本會議は八日に開かれる模様である

平料藝組合で 性智識の講習

平町料藝組合では七日花柳病豫防知識徹底のため縣衛

お百姓さん吃驚

兎を一羽捕へて

狩獵法違反

川前村大字下桶賀字秋農馬場(七)は去月十五日午後一時頃狩獵免許なくして双葉郡川内村大字上川内内地内山林に於て兎一羽を捕獲したと發覺狩獵法違反として五日小野新町署に逮捕された

花嫁養成第一歩に

按摩術を研究

中堅農民女生が

石城中堅農民では過般來平町團體事務所農事講習會を開いたが今回講習生百餘名中の女子四名に對して農事研究以外に將來主婦としての素質が最も必要であるとの建前から先づその第一着手として本六日より向三四日半町警署訓練院で按摩療法の研究を行つて良きお嫁さん養成に當ることになった

顛覆現場に

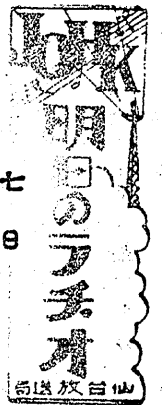
警報器設置

保線區の對策

昨年十月中磐越東線川前小川郷間で豪雨の爲列車顛覆事件を惹起、十二の生靈を奪はれて以來福島保線事務所では豫防對策を研究中だつたがこの程△川前小川郷

助手惡事

草野 村驛前赤塚自動車部助手耶



明日のラジオ

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お伽歌劇「小鳥室」祝ひ
歌「東京」モダモダ
後六、二〇 基礎英語講座
村岡博
後七、〇〇 講演「産業組合の將來」那須皓
後七、五〇 講演「産業組合記念日」際し東北組
生課一屋課長を迎へ性智識の講習會を催す

運動の伸展を思ふ

藤澤 運動の伸展を思ふ
後八、〇〇 御歌謹詠 松不俊子
後八、〇〇 新筆曲 津田寺寛外
後八、三〇 長唄「四季の山」吉住小三藤他
後九、〇〇 室内樂「絃樂四重奏」鈴木クワルテツ

明日の部

後九、三〇 時報 ニュース 氣豊通報 番組豫告
後六、二五 講演「電話の發明から今日まで」梶井剛
後七、三〇 哥「新曲櫻姫」哥澤芝松他
後七、四〇 立體漫談「夜から朝まで」
大岡怪童 入江デブ子
後八、一〇 ピアノ獨奏 笈田光吉
後八、三〇 講談「眞柄のお秀」西尾麟慶
後九、〇〇 時事解説 太田正孝

若き野望に燃え

別離の聲中健兒

あす卒業證書授與式

磐城中学校の第三十六回卒業證書授與式は明七日午前九時より同校講堂で舉行されるが今年卒業生は百八十九名である
(優等生) 五年精勤 ◎育英會賞
會川三郎治 赤津徹 阿部源一郎 阿部康司 阿部順吉 阿部知之 阿部瑞夫
新田目正夫 飯島徳治 猪狩功 猪狩一郎 猪狩至郎 猪狩次男 猪狩三千夫
猪狩依彦 石井弘道 石川福太郎 市川英雄 伊藤一良 伊東義郎 井上操 浦山健二 植田文夫 遠藤景久 遠藤清八 遠藤祐藏 大内二郎 大越三男 太田正三 大竹勇雄

只飲み二件

好間村大字關「瓦職鈴木重(三)は五日夜十二時頃中町田町料亭大真「同じく同村北好間坑夫熊田茂(二)も同夜同町南町カフエー一の井で夫々數圓の無銭飲食を働き平器に檢査された

男女工見習

右至急募集す 希望者來談あれ 常磐毎日印刷會社 長橋町 電話六三〇

上田病院

平町南町 電話二二九番

繞る瓦解の謎

(接上)

悟道軒圓玉(作)
丸尾至陽(書)

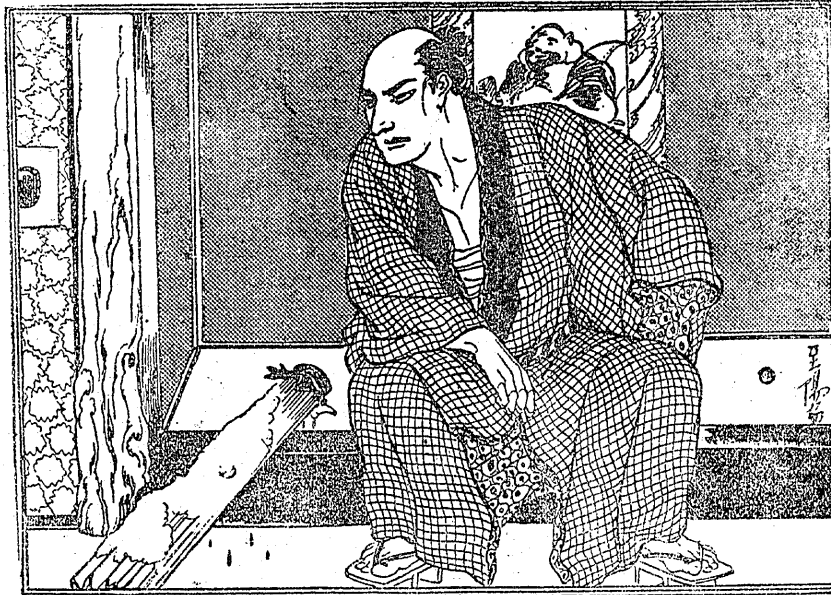


六五 足駄で二階へ
八百松は午夢留の子分の出した手ぬぐいを見て、松「常が鰻屋を出したと、あいつは南北の御用を聞いてある岡つ引だらう、俺達には博奕だ、その博打のところがへ御用聞きが手拭を配つて錢をよせるとは何う考へても理屈に合はねえことだ、何日か店開きだ」

○「今日ださうですよ」
松「それではこれから出かけよう、俺と一緒に鰻屋で一杯飲ましてやるぜ」

○「それは御馳走様でございます、この頃は鰻の匂ひをかいたこともねえ、二月ばかりしけ續きだ」
松「寒い時分のうなぎは夏程の甘味も有るめえが、行つて食べて見やう、さあさ遊んでゐる奴は一緒に来い……」

△「それは有難うございませう、オイみんな、松兄い、うなぎを御馳走するとよ、お供をしろ」
○「そいつは有難え、さア出かけませう」
松「まあ待て、降つて来たやうだな」
○「さうですね、さら〜、音がするが」



○「大分落ちて来ました」
松「まあ宜いや出かけろ」と大黒傘を持つて水屋敷を出た
松「大層降つて来たが、雪は何時見ても白いな」
○「古風だね、たまには赤い雪が降りさうなものだ、

むかしから雪は白いさうでオ、つめてえ〜、おつめてえ、切れるやうだ」
松「弱い音出すな、體だと思ふからつめてえ、體中面だと思へ」
○「なる程、兄のいふことには無駄がねえや、體中面だと思へば寒くもなからう」
などと冗談をいひながら神田をあとに薬研堀へ来た、こゝにゐる南北町奉行の御用聞き近江屋常次郎、通稱近常、これは岡つ引の親分

らしい格子の掛窓、入口には麻の暖簾が下つてゐる
松「さア〜入れ〜」
と松はいつたが、大黒傘を開いたまゝ、足駄を穿いて幅の廣い梯子をトン〜と上つて行く、一緒について来た若者はびつくりしたまゝ、こゝにゐる下足番に女中も呆氣に取られてゐる、松は下駄をはいたまゝ、二階座敷に通じ、傘をつぼめてバラ〜と雪を拂ひ、床の間へポーンと投げたが

松「誰か来いよ、ヤイ女出て来い、こゝは空店ぢやアなからう」
といはれて女中はオツ〜それへ出て来たが
女「入らつしやいませ、今日は悪いものが降りましてございませう」
松「そんなことを聞きに来たんぢやアねえ、あらいとこを十兩ばかり焼いて来な」

女「ハイ長まりました」
松「江戸前だらうな、このうなぎは旅ではなからうな」
女「おさかなは吟味してございませう、しかし親方下駄を脱いで頂きたいものでございませう」
松「岡つ引きの出したうなぎ屋だ、下駄を脱いで上る程の尊い座敷はなからう、来いよ、みんな下駄をはいたまゝで上れ、南北の御用聞きだなどと御用風を吹かして堅氣までおどして錢をとり、その上無頼漢に手ぬぐひを配つて金をよせるとは飛んでもねえ奴だ、それで御用聞きでゐられるか、さアさ早くうなぎを持つて来い、酒は樽ごと持つて来な」

イヤ傍若無人、女中はいふまでもない家内中ふるえ上り呆れてゐます。

耳鼻咽喉科専門
鈴木醫院
醫學士 鈴木 正男
平町田町 (電話五八番)
藤田女學校前
自炊のお需め、應ず入院の便あり

石炭
コークス
豆炭
阿部石炭店
平驛前
電話三十七番

産婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑士 大岩俊雄
平町新川町十九
病室完備 入院隨意
木村病院
電話一六四番

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

市原醫院
平町田町 (電一一四番)
内科 小兒科 市原卯太郎
外科 梅毒・淋病 市原三三男
入院隨時

磐城セメント會社特約店
久金屋商店
磐城平町五丁目 電話九・九九
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり